

本農區ハ岡山縣ヨリ移住セル親族關係ノミノ團體ニシテ現在十二戸アリ何レモ素朴ナル力行家ノ集團ニシテ純然タル共同經營ナリ低濕地ヲ開墾シ水利ヲ拓キ水田ヲ造成シ六年度ニ於テ水田三十町歩畑地三十五町歩ヲ耕作セルガ其ノ成績良好ニシテ現在ノ如キ不況時ニ於テモ猶直接生産費並生計費ヲ償フテ幾分ノ餘裕ヲ生ジ得タルハ成功ノ端緒ヲ得タルモノト謂フベク將來最モ有望ナル農區タルベシ。

(2) 同夾心子農區

本農區ハ大部分果樹園ニシテ當初ヨリ四、五年生ノ苹果ヲ植栽セリ入地者五名アリテ何レモ未ダ收穫ヲ得ルニハ至ラザルモ地味良好ノ方ナルヲ以テ將來相當ノ成績ヲ舉ゲ得ル見込ナリ。

(3) 同李家屯農區

本農區ハ普通作物ヲ主作物トシ果樹、水稻及蔬菜ヲ加ヘ栽培セリ現在入地者十八戸アリ當區ハ普通作物ヲ主作物トセル爲收支ノ關係上一戸當七、八町歩ニテハ猶耕地ノ不足ヲ告グト稱シ居レリ。

(4) 普蘭店管内楊樹房農區

本農區ハ土地比較的良好ニシテ現在十八戸ノ農家ヲ收容シアリ一戸當二町歩内外ノ果樹ヲ植栽シ其ノ他ハ普通作物及蔬菜ヲ栽培セリ而シテ六年度ノ實績ヲ見ルニ多少ノ缺損ヲ生ジタルモ移住初年ニシテ各種ノ設備等ニ多額ノ出費ヲ要シタルモノナレバ次年以後ハ更ニ節約シ得ル餘地アリ尙經營ニ今一段ノ努力ヲ拂ヘバ收支相償ヒ得ルモノト推測セラル。

(5) 同三十里堡農區(前表其ノ他農場中)

本農區ハ昭和五年度耕地整理ヲ施行シタルモ入地者少數ナリ稻作及普通畑作ヲ耕セリ本區ニ於ケル會社直營ノ水稻栽培成績ヲ觀ルニ耕地整理直後ノ耕作ニシテ土地不熟ノ爲收量少ナク且ツ凡テノ勞力ヲ雇傭ニ依リタルヲ以テ勞力費ニ多額ヲ要シタルモ猶多少ノ利益ヲ見タリ之ヲ自家勞力ヲ以テスレバ土地ノ熟地トナルニ從ヒ收量モ逐年増加スルハ明カナルヲ以テ今後ハ相當ノ成績ヲ舉ゲ得ル見込ナリ。

(6) 金州管内小蓮泡農場

本農區ハ全部官有土地ニシテ昔時ハ沼澤地タリシモノヲ邦人が借受ケ不完全ナル排水設備ニヨリ耕地ニ爲サムトシテ遂ニ失敗ニ歸シタル土地ナルガ同社ニ於テ讓渡ヲ受ケ排水設備ヲ完備シ「トラクタ」ヲ使用シテ土地ノ改良ヲ施シツツアリ現在十二戸ヲ收容セリ之等ハ概ネ滿鐵農業實習所卒業業者ナリ昭和六年度ハ土地未熟ナルニ且ツ虫害ヲ蒙リ爲ニ充分ナル成績ヲ舉ゲ得ザリシモ農家ノ收支ヨリ推算スルニ此ノ凶作不況時ニシテ缺損ノ僅少ナリシハ前途ニ曙光ヲ認メ得タリト謂フベシ。

要之本社ノ移植民ノ業績豫期ノ如クナラザリシハ堅實ナル中産農家ヲ創定セムトスル目的ナルヲ以テ移民選定ニ嚴正ナリシコトモ其ノ一因ヲ爲スモノナルベシト雖モ一般財界ノ不況ハ農産物ノ價額ニ影響ヲ及ボシ最初ノ計畫ニ齟齬ヲ來シタルト、又日本内地ニ於ケル農家ノ財産處分ニ澁滞ヲ生ジ移住資金ノ調達ニ支障ヲ來シ移住ノ意志確實ナル者ト雖モ已ム無ク素志ヲ翻ス者

續出セルニ因ルモノニシテ會社ハ此ノ兩三年ノ實績ト環境ノ推移トニ鑑ミ從來ノ規程ヲ改正シ
移住者ヲシテ可及的容易ニ入地シ得ル様セムトシ目下之ガ最善ノ方法ヲ攷究中ナリ。

元來本事業ノ如キハ其ノ性質上一朝ニシテ其ノ成果ヲ收メ得ベキモノニアラザルモ藉スニ相當
ノ歲月ト不斷ノ努力ヲ以テセバ成業ノ域ニ達スルコト難カラザルベシ時恰モ今回ノ事變ニ遭遇
シ今後ノ時局ノ進展ニ伴ヒ同社ノ活動範圍モ擴張セラルルモノノ如クナルヲ以テ今後ノ經營如
何ニ依リテハ相當發展シ得ルモノト推測セラル。

七 滿洲移民ノ住宅ト食物

戶田京都帝大教授ト金州老農安永乙吉氏トノ對談要領(昭和七年六月五日)

囑託中 村 廣 喜

京都帝國大學教授同醫學部長戶田正三博士ハ邦人ノ農業移民ニ對シ適當ナル農家住宅ヲ供給スル必
要アリ其ノ設計ニ關シ拓務省ヨリ調査方依囑ヲ受ケタルヲ以テ同教授ハ其ノ専門タル衛生學ノ見地ヨ
リ滿洲ノ氣候風土ニ適シ且ツ農業者ノ生活ニ適切ナル經濟的住宅ノ設計案ヲ得ンガ爲メ十餘日間滿洲
各地ニ於ケル邦人農家ヲ往訪シ其ノ資料ヲ蒐集シツツアリシガ、關東州ニ於テハ愛川村移民ハ既ニ二
十年近キ歴史ヲ有スルヲ以テ實地ニ之ヲ視察シ其ノ現狀並移民ノ住宅ニ對スル經驗、感想、氣分等ヲ
聽取シ衛生的方面ヨリ之ヲ研究シタキ希望ナリキ。

同教授ハ六月五日午前七時十一分金州ニ下車ス余ハ清水土木課長ノ命ニ依リ驛ニ同教授ヲ出迎ヘ直
チニ愛川村ニ出發セントシタルモ折惡シク朝來ノ豪雨ハ益々激シク待ツコト時餘ニ及ビシモ仍ホ止マ
ズ民政署ヨリ同行ノ筈ナリシ島倉技手及運轉手ノ意見ハ愛川村ニ至ル途中ノ小川氾濫シ渡涉困難ナラ
ントノコトニテ念ノ爲メ電話ニテ愛川村警官派出所ノ意見ヲ聽キシモ同様困難ニ付本日ハ見合セ然ル
ベシトノコトニテ遺憾ナガラ愛川村行ヲ斷念スルコトニ一決シ參考ノ爲メ驛附近ノ老農安永乙吉氏ヲ
往訪スルコトトナセリ、安永氏ハ二十餘年前金州ニ來リ菜園ヲ經營シ主トシテ蘿蔔ヲ栽培シテ澤庵漬
ヲ製造シ各地ニ搬出シテ多年金州澤庵ノ名聲ヲ滿洲市場ニ博シツツアリ、最初金州澤庵ハ同氏ノ創始
ニ係リ其ノ獨占業ナリシモ數年前ヨリ邦人同業者出テ特ニ同氏ヨリ漬物技術ヲ習得セル支那人ノ之ヲ
模倣スルアリテ稍々昔日ノ盛況ヲ減殺シタル感アルモ仍ホ昨昭和六年金州澤庵總產額約三萬圓ノ内三
分ノ一ハ安永氏ノ製造ニ係ル(民政署員談)ト云フ、同氏ハ福岡ノ人、年齢六十餘歲相當ノ學識ヲ有シ氣概ニ
富ミ仁俠ヲ好ム、家業ニ熱心ナルノミナラズ力ヲ公事ニ致シ金州名望家ノ一人ナリ。

左ニ戶田、安永兩氏對談中記憶ニ殘リタル事項ヲ摘録ス但シ多少ノ誤聞、遺漏アルヲ免レザルベシ
一、移民住宅設計ニ就テ

戶田教授ハ滿洲ノ氣候風土ニ適シ且ツ經濟的ナル農家ノ建築ハ左記圖面ノ如キ方式ニ依リテハ如何
トノ間ニ對シ安永氏ハ之ヲ一瞥シテ反對意見ヲ述ブ曰ク。

(一) 屋内相對シテ炕ヲ有スルハ一方南ナレバ他方ハ北ナルヲ以テ此兩炕ハ事實上同時ニ使用シ難
シ寧ロ支那式ノ如ク片炕ナルニ若カズ。

(二) 中間ニ土間アルハ日本人ニハ不便且ツ不愉快ナリ土間ヲ廢シ炕トナシ北側ヲ押入又ハ物置トナスヲ可トス。

(三) 倉庫ハ大ナルヲ要セズ野菜類ノ貯藏ハ土間ニ地窖ヲ穿ツヲ勝レリトス。

(四) 壁ヲ土煉瓦ト爲スハ不可ナリ滿洲ハ平素降雨尠キモ一朝雨ニ會スレバ大雨益ヲ覆スガ如ク且ツ強風之ニ伴ヒ猛烈ナル雨風ハ外壁ヲ打チ屋内ハ忽チニシテ濕氣充滿シ床ヲ潤ホスノミナラズ土壁ナルトキハ四時夜露ヲ吸集シ崩壞シ易ク不衛生且ツ不經濟ナリ依テ屋壁ハ州内ナレバ石材豐富低廉ナルヲ以テ石ヲ用ヒ奥地ナレバ燒煉瓦ヲ用フルヲ適當トス。

(五) 農家ノ建築モ餘リ手狭ナルハ不可ナリ十五坪位ヲ標準ナリト思考ス殊ニ居心地ノ點ヨリスルモ耐久力ノ點ヨリスルモ當初多少ノ經費(坪當二三十圓)ヲ住宅建築ニ投ズルハ已ムヲ得ザルベシ。

(六) 住宅建築ニ就キ注意スベキハ其ノ工費ガ農業者ノ資力ニ適應スルヲ肝要トシ利子附ノ借金ヲ以テ工費ニ充ツルガ如キハ禁物ナリ恐ラク長ク其ノ元利ノ返濟ニ追ハレ困難スルニ至ラン。

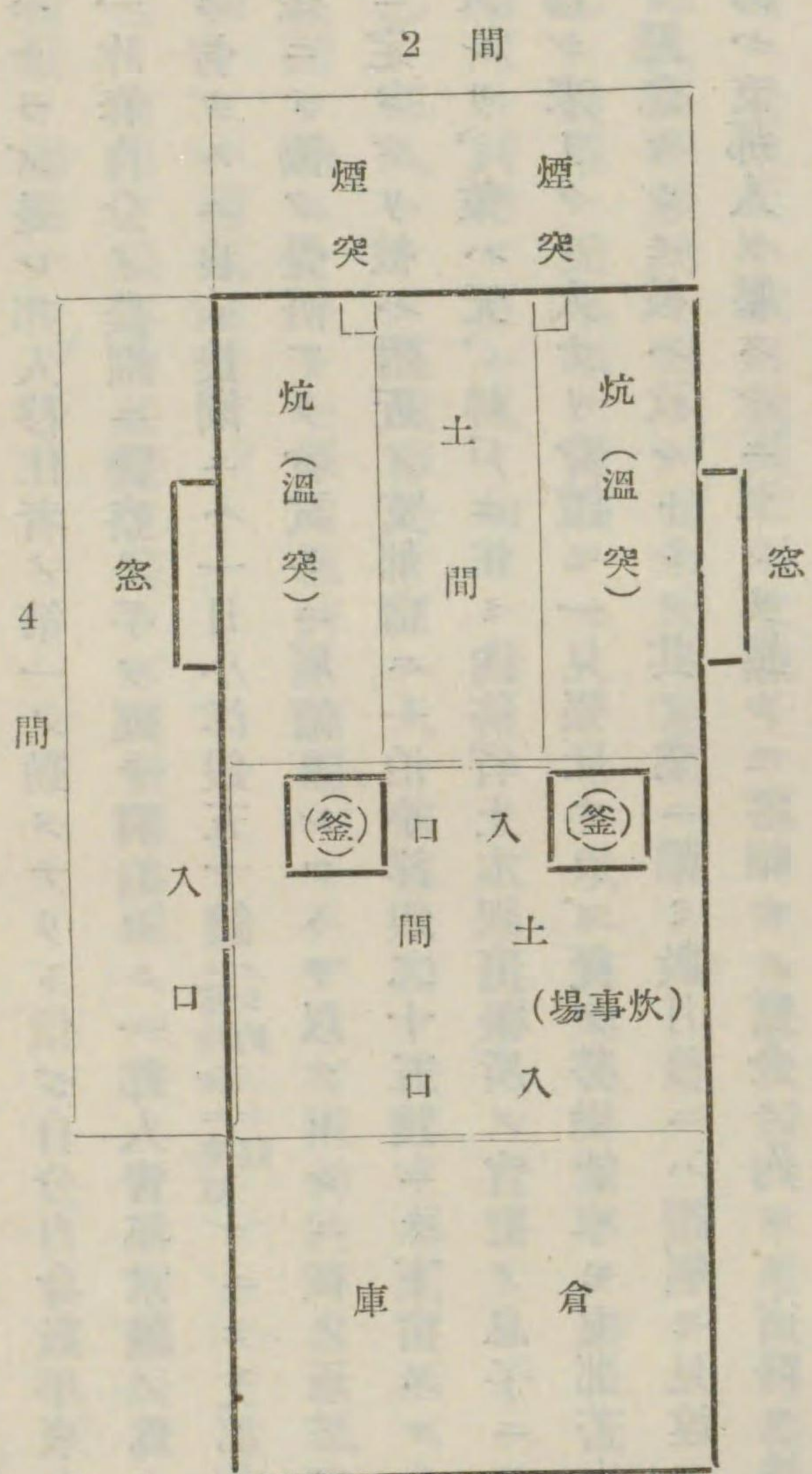
戸田教授ハ自己ノ移民家屋設計案ハ追テ奉天醫科大學ノ教授ト謀リ同大學構内ニ之ヲ築造シ試験ヲ爲ス豫定ナリ仍ホ安永氏ノ意見等ヲ參酌シ更ニ攷究ノ上成案ヲ得ベシト語り引續キ左ノ談話アリ。

(一) 移住民ガ氣候風土ノ異ナル遠隔ノ地方ニ居住スルニ當リテハ住宅ノ問題ハ頗ル大切ナリ、自分ハ曾テ住宅衛生研究ノ爲メ南米ニ出張シタルコトアリ其ノ際聞知スル所ニ依レバ南米ノ或ル地方ニ入植シタル日本移民ハ土人ノ住宅ニ關係ナク隨意ノ方法ニ依リ住宅ヲ建造シ居住シタル

ルニ間モナク總人口ノ約半數ハ「マラリヤ」ニ罹リテ斃レ殘餘ノ人々ハ意氣阻喪シ産ヲ失ヒ農村ヲ棄テテ市街ニ漂浪シ來リ遂ニ乞食ノ群ニ投ズルガ如キ悲境ニ陥レリ。

(二) 亦タ樺太ニ於テ邦人ノ移住者ハ住宅、衣類等ニ關シ研究足ラズ初冬寒冒ニ罹リ易ク一度之ニ罹レバ翌春ニ至ルマデ全治シ難ク從テ屋内ニ蟄居シ徒食スルヲ以テ春期ニ至リ脚氣ヲ患フ者多シト云フ蓋シ移民地ニ於ケル住宅衛生ノ等閑ニ付スベカラザルヲ痛感シタリ云々。

戸田教授ノ示セル農民住宅設計圖



建築單位ヲ本圖ノ方式トナシ必要アレバ之ヲ建設ス
屋根 草葺
壁土 煉瓦
建坪 八坪(倉庫ヲ除ク)
建築費 一〇四圓
(坪當リ一三圓)

二、邦人滿洲移民ノ生活ニ就テ
安永氏語ル

愛川村

(一) 邦人が生活程度低キ支那民族ト伍シテ滿洲移民ヲ爲サントスルニ當リテハ支那人同様ノ簡易且ツ安價生活ニ甘ンズルノ覺悟アルヲ要ス即チ邦人ハ須ラク一日十錢以内ノ食費ニテ生活セザルベカラズ是レ邦人移住者ノ第一ノ勤メナリト信ジ自身自身數年來之ヲ實行シツツアリ。

一昨春自分ノ農園ニ警察ノ手ヲ經テ窮迫セル一邦人青年求職ノ爲メ訪ネ來レリ依テ余ハ此ノ青年ニ告グルニ自家農園ニハ一日小洋銀五十錢(當時金ニ換算シ約三十錢)ニテ支那苦力ヲ傭ヒ居レルヲ以テ此ノ賃金ニテ働ク覺悟アラバ試ミニ雇傭センコトヲ以テセシニ彼ノ承諾アリシニ依リ之ヲ使役スルコトニ定メタリ彼ハ附近ノ支那宿ニ一泊小洋銀二十五錢ニテ下宿スルコトトナリ全然支那式ノ生活ニ入レリ、彼ハ元、神戸ニ住ミ内務省土木課出張所ノ官吏ノ息子ニテ中等教育ヲ受ケ相當ノ生活ヲ爲シ來リタル人ナリ身體モ一見強壯ナラズ從テ勞働能率モ支那苦力ニ劣リ長ク勞働ニ堪ヘ得ルヲ懸念セシモ彼ハ孜々トシテ其ノ業ニ勵ミ數月後ニハ體軀モ見違フ計リ壯健トナリ遂ニ其ノ勞働力ハ支那人ヲ壓スルニ至レリ然カモ零細ナル賃金ノ内ヨリ宿料ヲ拂ヒタル殘餘ハ悉ク貯蓄シツツアルヲ以テ余ハ始メテ此ノ青年ノ用フベキヲ知リ今後彼ノ貯金ニ對シテハソレト同額ヲ賞與トシテ給スベキコトヲ約シ一年餘ニシテ彼ノ貯金ハ百數十圓ニ達シ彼ノ體格ハ益々頑健トナリ又米食ヲ願ハズ、支那農夫ヲ凌駕スルニ足ル一箇ノ模範的滿洲移民適格者ヲ造成シ得タリト確信スルニ至レリ、此ノ青年ハ支那式生活ノ爲メ少時ヨリ鈍感ナリシ嗅覺ヲ回復シ頭腦ヲ明快ニシ前途ノ希望ニ滿チ心身共ニ健全トナレリ。

今日自宅ニ七名ノ邦人青年アリ中ニハ高等農林出身者モアリ全部支那食生活ヲ爲シ日給金三十幾

錢ニテ農事試驗場ノ農場ニ傭ハレ苦力同様勞務ニ服シ皆成績良好ニシテ支那苦力ニ比シ遙カニ能率ヲ擧ゲ賞讃ヲ受ケ居レリ云々。

(二) 安永氏ノ實行シツツアル支那食ノ内容

主食品ハ包米ニシテ一ハ餅子ニ作り一ハ粥トナシテ混食シ製法食法全然支那式ナリ副食物ハ葱、蒜、漬物、味噌等ヲ用ヒ一週一回、鹽魚及豚肉ヲ食ス一箇月一人前ノ食費金二圓五十錢ヲ標準トス先月(五月)ハ一人當リ二圓三十錢ナリキ。

因ニ安永氏ハ家財數萬、年收數千ヲ算スルモ老夫婦共ニ雇人同様支那食ニ甘ンジ頗ル元氣ナリ。

三、邦人滿洲移民ニ對スル安永氏ノ意見

(一) 農業ハ元來頗ル薄利ノモノナルヲ以テ農業其ノモノヲ樂ム人ニアラザレバ農業者ニ適セズ短期間ニ利得ヲ望ム人ノ如キハ始メヨリ之ニ從事スル資格ナシ。

(二) 邦人ニシテ滿洲移民ヲ望ム人ハ前述ノ如ク先ヅ支那式生活ヨリ出發セザルベカラズ、支那式生活ヲ始ムルコトハ單ニ經濟ノ問題ノミニアラズ精神的ニ自己ヲ改造シ新運命ヲ開拓セントスル物々タル勇氣ヲ生ズ。

(三) 前記ノ根本的基礎ヲ築カズ出發點ヲ誤レル彼ノ愛川村農民ガ今日仍ホ借財ニ苦ミツツアルハ當然ノ歸結ナリ。

(四) 余(安永氏)ハ過般大連農事會社ノ移民農場ノ一タル小蓮泡(愛川村ノ北方二十餘町、熊岳城及公主嶺ノ農業實習所卒業ノ青年移民十三戸アリ)ニ赴キ一農家ヲ訪ネタルニ先ヅ其ノ家屋ノ文化的ナルニ驚キ次デ其ノ經費及生活狀況ヲ見ルニ及

ビ是レ亦愛川村ノ轍ヲ蹈ムニ至ランコトヲ憂ヒ青年ニ警告シ置キタリ彼一戸ノ昨昭和六年ノ收入ハ七百圓ニシテ其ノ内五百圓ハ勞銀トシテ支那農夫ニ支拂ヒ而シテ土地ハ全部畑ニシテ一粒ノ稻作ナキニ拘ハラズ日常米飯ト魚肉ヲ用フ今日ハ假令、新開草創ニシテ漸次增收ノ見込ハアルナラシモ生活費其ノ他出費ノ之ニ追隨シ或ハ之ヲ凌駕スルハ明白ニシテ到底前途ノ曙光ハ之ヲ認メ難シ今日君等ハ餘程ノ決心ヲ要ス自己一人ノ決心ノミニテハ不可ナリ、夫婦篤ト相談シ其ノ去就ヲ定メザルベカラズ即チ當地ノ農業者ハ米食ヲ爲スベカラズ他ノ邦人ノ生活ヲ羨ムベカラズ唯ダ農業ニ專念シテ其ノ成績ヲ舉グルアルノミ、若シ美食ト娛樂トヲ欲セバ農業ヲ斷念シ去リテ商人トナリ勤人トナルベシト。

(五) 邦人ニ適セル移民地

滿蒙ノ實情ヨリ見テ今後ハ成ルベク錦州地方ノ如キ氣候風土ノ日本ト大差ナキ地方ヨリ植民ヲ始ムルヲ可トス又治安ノ維持セラレザル地方ニハ入植ノ見込ナキヲ以テ鐵道沿線ニ近キ土地ヲ大會社等ノ手ニテ買収シ之ヲ移住者ニ分讓シ斯クテ南部移民ヲ開始シ徐ロニ北進ノ力ヲ養フヲ得策トスベシ。

(六) 滿洲移民ニ適スル邦人ノ資格

多數無資産ノ人ヲ移民セシムルハ頗ル危険ニシテ成功覺東ナシ最初ハ多少資産ヲ有スル者ヲ入レ邦人農夫ヲ雇傭シ漸次彼等ヲ獨立セシメ行ク方法ヲ採ルベシ「恒産ナケレバ恒心ナシ」無産ノ失敗者ハ滿洲ニ於テハ匪群ニ投ズルニ至ランノミ。

(七) 移民ニ對スル過度ノ保護ハ禁物ナリ「窮スレバ通ズ」各自其ノ力ニ應ジテ發展セシムベシ。

右會談約二時間ニシテ終リ戶田教授ト安永氏宅ヲ辭シタル後、教授語リテ曰ク安永氏ノ經營法ニハ非難スベキ餘地ナシ但シ氏ノ如キ人物ヲ俟ツテ始メテ之ヲ能クスベキコトニシテ斯カル指導者ハ容易ニ得難シ、例ヘバ一燈園(愛川村ノ東南一里半東田家屯ニ燈園ト稱シ一燈園派ノ農園アリ)ニ於ケル西田氏ノ如ク卓越セル指導者アリテ始メテ能ク理想ヲ實現ス移民地ニ適當ナル指導者ヲ得ザルハ大ナル不幸ニシテ移民失敗ノ原因ハ多ク此ノ點ニ存ス云々。(終)

八 金州管内ニ於ケル燈影莊移民概觀

關東廳 中 村 囑 託

一 緒 言

燈影莊ハ金州ノ北四里大魏家屯會東田家屯平山北腹ノ傾斜地ニ在ル。大正十三年ノ頃一燈園主西田天香氏ガ愛川村ヲ視察シ一燈園主義ヲ以テ多年不振ノ狀況ニ在ル愛川村ノ振興ニ寄與センコトヲ決意シ時ノ西山金州民政署長ノ斡旋ニ依リ一燈園同人山崎壽ヲ愛川村ニ入ラシメ愛川村居住宮本永義ノ歸國後同人ノ經營セシ水田三町歩餘ヲ耕作セシメタ。然ルニ一燈園主義ノ遂行ハ愛川村デハ困難デアツテ村人トノ折合モ面白カラズ經營モ意ノ如クナラズ約千五百圓ノ損失ヲ生ジタト云フコトデアル。愛川村デ耕作ヲ續クルコトガ不可能トナツタカラ之ヲ他ニ移轉セシメル必要ヲ生ジ金州民政署ハ昭和

二年四月現在ノ平山北側ノ官有地ヲ新タニ貸付クルコトナリ山崎ハ此ノ地ニ農場ヲ經營シ之ヲ燈影莊ト命名シタ。

燈影莊ノ經營方針ハ貸付地ノ地形ヤ土質ヲ考慮シ大部ハ山林トシテ「アカシヤ」ヲ植付ケ一部ノ畑ニハ雜穀花卉桑ヲ作ルナド成ルベク人手ヲ省キ土地ニ即シタ作物ヲ工夫シテキル。特ニ關東州デハ貨幣ガ金銀竝ビ行ハレテ居ルカラ支出ニ借地料肥料代等金ヲ要スルモノト苦力賃家畜代等銀ヲ要スルモノトヲ豫算シ之ニ應ジテ收入モ金計算ニテ賣却シ得ル蠶花卉類、銀ニテ賣却シ得ル包米高粱等ヲ作り成ルベク通貨ノ變動ニ依ル危險ヲ防止スル爲メ細心ノ注意ヲ拂ヒ合理的經營ヲ爲シテキル。其ノ成績頗ル良好デアツテ昭和七年度ニ於テハ經費ヲ差引キ金百圓銀三百圓ノ剩餘ヲ生ジタトノ事デアツタ。

當農園ノ特色ハ經營及從業者ガ一燈園主義ニ基キ精神的奉仕的ニ拮据經營スル點ニアル。之ガ爲メ普通農業者トハ出發點ニ於イテ根本的ニ相違シテキル、普通農園トシテ産業的方面ヨリノミノ觀察デハ此ノ農場ノ真相ヲ傳ヘ難イ。結局一燈園主義ノ説明ニ歸スルノデアアルガ筆者ハ一燈園ノ教義ニ就イテ多ク知ル所ハナイ。昭和八年三月偶々愛川村ニ出張ノ途次燈影莊ヲ訪問シタノデアアルガ山崎壽氏ガ大連行キノ爲不在デアツタ。同人某氏ト數時間對談シタ當時ノ記憶ヲ述ツテ本編ヲ起草スルノデアツテ甚ダ覺束ナイ紹介デアアル。或ハ過誤ナキヲ保シ難イ。茲ニ調査トイフヨリモ農園訪問當時ノ感想ヲ記述スルニ止メル。

二 概況

一、所在地 金州管内大魏家屯會東田家屯

一、經營者 京都市山科町一燈園西田天香

一、管理者 金州管内大魏家屯會東田家屯三二(山崎壽)

一、畑 五町六反

一、林 野 十六町步

一、宅 地 五十坪

一、建物

住宅 一棟 十二坪

納屋 一棟 二十四坪

畜舍 三棟 八坪

一、從業者

男 四人

女 一人

雇 一人

一、家畜及家禽等

牛 大三頭 小一頭

豚 大四頭 小九頭

鶏 三羽

蜜蜂一箱

一、特用作物

イタチハギ 一町歩
落花生 二町五反

一、普通作

花 卉 六反
包 米 二反
粟 三反

一、養蠶

桑園 二町歩
春 蠶 十枚
夏 秋 晚 十四枚
計 二十四枚

三 生活ノ根本義

一、一燈園同人ハ個人ノ所有ヲ認メナイ
但シ他人ノ所有權ヲ認メナイトイフ譯デハナイ。自己ノ所得ヲ私シナイ同人ノ共同利益ノ爲提供ス
ルトイフ意味デアル。

此ノ主義ヲ徹底セシメル爲ニ各地到ル所ニ同人ガアツテ他ノ面倒ヲ見ルカラ病氣ヤ旅行ノ時醫藥費
モ旅費モ要シナイ。

二、極度ノ質素儉約

三、堅忍勤勉
大體以上ノ如キ信條ノ下ニ働クトイフノデアルカラ世ノ經濟産業ノ觀念ヲ超越シテキル。燈影莊ノ
居室ニ天香氏ノ自筆デ左ノ額ガ掲ゲラレテキル。

莊園不屬于人我國執
擔人當爲光化脫落土

四 投資額及建物

當農場ハ五年間ニ四千五百圓ヲ投ジタ。此ノ金ハ天香氏ガ數回滿鐵ノ委託ヲ受ケテ滿洲ヲ講演旅行
シタ時ノ謝禮ノ金ヲ積ミ立テタモノノ由デアル。純支那式ノ建物デアツテ日本式ニ工夫シテアル點ハ
見當ラナイ。冬ハ火モタイテキルガ床ガ暖イダケデアツテ室内ノ溫度ハ零點下ニ降ツテキル。障子モ
少シ破レテキル位デアルカラ通風ハ申分ガナイ。昨冬松浦醫學博士ガ一週間當農場ニ起臥シテ調査ノ
結果室内ノ空氣モ溫度モ衛生上良好デアルトイフ證明デアツタトノコトデアル。

五 食物、衣服及井戸

之ガ本農園ノ生命デアツテ純支那式デアル。主食物ハ高粱、包米、綠豆、副食物ハ大根、白菜、胡
蘿蔔、馬鈴薯等悉ク農場自作ノモノデアル。自給自足ヲ實行シテキル。筆者モ農場訪問ノ日晝食ニ辨

當ヲ携帶シテ居ツタガ農場員ノ御勸メニ依リ同人諸君ノ常食ヲ嘗伴シタ。高粱ニ綠豆ヲ入レタ「カユ」デアツテ少シ鹽味ヲツケテ食ベ易クオ菜ハ大根茄子等ノ味噌煮デアツタ。味噌ハ大豆ノミデ出來タ自家製品デアアル。オ茶ハ畑ノ片隅デ採レタ「ユララ」茶デアアル。鹽ヲ除ク外ハ購入品ハ一ツモナイ。寒イ日ニ暖キ晝食デアリ且ツ空腹時デアツタカラ美味シク頂戴シタ。

前記ノ如キ食事デアルカラ此ノ農場一人當リ食費ハ月額二圓トイフコトデアアル。元來高粱ハ雜穀中最モ不味ト稱セラレテ居ルノデアアル。亦カカル粗食デハ速ク空腹ヲ感ズルカラ從來滿腹スル迄食フ例デアツタ。然ルニ昨冬松浦博士ガ實驗ノ結果滿腹ハ宜シクナイ消化ノ爲メニ體內ノ力ヲ徒費シ仕事ノ能率ヲ惡シクスルト云フ意見デアツタカラ同人等モ其ノ意見ニ從ヒ少シ控ヘ目ニ食事ヲシテキルトノコトデアツタ。對談者ハ自分等ハ粗食ニサヘ滿腹出來ズ食物ニハ餘リ惠マレナイト苦笑シテキタ。然シ經驗ノ結果腹八合ノ方ガ身體ニ具合ガ良ク仕事モ抄取ルトノコトデアツタ。農園内ニハ棗ヤ杏ノ樹ガアツテ此等ノ果物ハ潤澤デアアル。附近ニハ兎ガ多ク畑作ヲ荒スカラ罌ヲ掛ケテ時々之ヲ捕ヘ兎汁ニ舌鼓ヲウツコトモ出來ル。此ノ農園ノ主義トシテ極端ニ贅澤ヲ排斥スルカラ偶々來客カラ菓子其ノ他ノ贈物ヲ貰フコトガアツテモ之ニ慣ルルコトヲ恐レ附近ノ村人ニ分チ與ヘ同人ハ之ヲ口ニシナイコトニシテキル。

衣服モ純支那式デアツテ帽子カラ靴迄村ノ人々ト何等異ナル所ハナイ。同人諸氏ハ茶褐色ノゲートルヲ使用シテ居タ。燈影莊ノ建物ハ平山ノ中腹ニ建テラレテ居テ井戸ハ約七町ヲ隔テタ下手ノ地隙ニ在ル、此ノ汲水ノ爲ニハ毎日骨ガ折レル。同人ノ入浴ハ月ニ一回トノ事デアアル。

六 場員ノ學歷及作業振

本場同人ノ内十七歳位ノ少年ヲ除ケバ他ハ三十歳内外ノ中等教育以上ノ人達デアアル。其ノ一人ニ前記松浦博士ノ令息デ北海道帝大農科ニ在學シテ居タ當年二十六歳ノ青年モ加ハツテキル。

従業員ハ皆血氣盛リノ青年デアツテ一種ノ信念ノ下ニ働イテキルノデアアルカラ苦力ヲ使役スルニシテモ自ラ先ニ立ツテ働キ村人ノ信任ヲ博シテキル。殊ニ勞働者ノ賃銀ノ如キハ前拂ヲ爲ス位デアアルカラ村民ノ評判ハ大變良イ。之ヲ他ノ邦人事業者ノ往々金拂ヒノ惡イノニ比シ霄壤ノ差ガアル。

七 事業成績

昭和七年ノ事業成績ハ一切ノ經費ヲ差引キ金百圓(天香氏ノ新聞ニ發表シタモノニハ金三百圓トナツテキル)ト銀三百圓ノ剩餘ガアツタ。此ノ金銀合計四百圓ノ剩餘ハ投資額ニ對シ利子原價償却等ヲ考慮シテナイカラ純益トハ云ヘヌノデアラウガ兎ニ角四百圓ノ剩餘ヲ生ジタ。之ハ昭和七年州内ノ農家トシテハ稀有ノ成績デアツタ。而シテ此ノ成績ヲ擧ゲタ原因ニ就イテハ言フ迄モナク其ノ生産費ガ僅少デアツタト云フコトニ歸著スル。生産費少額ハ即チ農園從業者ガ無報酬デアリ食費ガ極度ニ節約セラレテキタコトニ外ナラヌ。前記ノ如ク當農場一人當リ食費ハ月額二圓ニ過ギヌ。五人デ年額百二十圓デアアル。假ニ雜費ヲ加ヘ年額二百圓トシテモ之ヲ普通ノ日本人農夫デアレバ一人年額二百圓、五人デ總額千圓ハ要スルデアラウ。若シ千圓ヲ要シタトスレバ前記昭和七年度ニ於ケル四百圓ノ剩餘ハ反對ニ六百圓ノ缺損トナツテ現ハレル事トナル。當地ニ於ケル日本人ノ農業ガ如何ニ困難デアアルカラ物語ルモノデアアル。

從來邦人農業移民ノ不振ナリシニ鑑ミ現在及將來ノ移民問題ハ此ノ切實ナル生計費問題ヨリ解決シ
テカカラナケレバナラヌコトヲ指示スルモノデアル。

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '愛川村' and other illegible characters.)

昭和十年十一月二十五日印刷
昭和十年十一月三十日發行

關東州廳土木課編纂

發行人 大連市紀伊町九千一番地 佐藤四郎

印刷人 大連市東公園町三十一番地 吾妻力松

印刷所 大連市東公園町三十一番地 滿洲日日新聞社印刷所

6

民國十一年十一月二十日發行
即於十一年十一月二十五日出版

廣東州縣上木業歸業

發起人	總理	副總理	監事	庶務
陳其美	陳其美	陳其美	陳其美	陳其美
陳其美	陳其美	陳其美	陳其美	陳其美
陳其美	陳其美	陳其美	陳其美	陳其美

6

Small decorative label or stamp on the left page, possibly containing a date or reference number.

698
49

